

新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

岩手県高等学校体育連盟

軟式野球専門部

(令和4年5月6日)

◆県大会の方式◆

- ・ トーナメント方式による「無観客試合」とする。

※保護者及び学校関係者に限り会場観客席への入場を可とする。

◆県大会の実施に係り◆

- ① 令和4年5月28日(土)、29日(日)、5月31日(火)を開催期間とする。
- ② 令和4年5月16日(月)の組合せ抽選会の出席は、各校責任者と主将とする。出席者においては、検温・手指消毒やマスク着用、間隔を空けての着席等、感染防止の徹底に努めること。

1. 開催可否の検討

- ① 政府または岩手県から「緊急事態宣言」などに伴うイベント開催自粛などの措置がとられた場合。
- ② 岩手県教育委員会から次の指示が出た場合。
 - ① 学校の休校・部活動の自粛要請
 - ② 学校の通常授業・部活動の自粛要請
 - ③ 学校の通常授業・大会自粛要請

2. 感染者が発生した場合の対応

(1) チームとしての大会参加…高体連コロナ対応4(4)

- ① 学校が休校措置になっている場合は、チームの大会参加を見送る。また、学年閉鎖、学級閉鎖になっている場合は、当該学年、学級に所属する生徒の大会を見送る。
- ② チーム内で大会一週間前から前日までに部活動が起因する小規模クラスターが発生した場合、チームは大会参加を見送ること。

(2) 個人としての大会参加

【 大会関係者、参加校(チーム)関係者〔指導者(副部長・コーチ含)、登録選手、控え部員〕 】

大会前、大会中に大会関係者、参加校(チーム)関係者から「感染者」や「濃厚接触者」が発生した場合は、以下の『対応表①・②〔日本高野連作成〕』に準じ対応する。

①感染陽性者が発生した場合の対応

グループ	球場来場頻度	例	感染陽性者が発生した場合の対応
A	毎日球場へ来場する人	大会役員 記録員(常勤) など	感染者以外の大会役員、記録員が感染者とどのような接触歴があったかを確認する。保健所から濃厚接触者の指定を受けた場合は保健所の指示に従う。その間は別の大会役員が運営にあたる。
B	毎日ではないが複数回球場へ来場する人	審判委員 記録員	陽性者以外の審判委員、また大会役員等が感染者とどのような接触歴があったかを確認する。保健所から濃厚接触者の指定を受けた場合は、保健所の指示に従い、別の審判委員、あるいは大会役員が運営にあたる。
C	試合の時だけ来場する人	参加校関係者 (指導者、部員)	陽性者は大会参加不可。保健所及び医師から指示された健康観察期間(自宅待機)の解除後も、咳などの身体症状が残る場合は、大会参加を自粛するなど、学校で適切な対応をすること。…高体連コロナ対応4(1)

②濃厚接触者となった場合の対応

グループ	球場来場頻度	例	濃厚接触者が発生した場合の対応
A	毎日球場へ来場する人	大会役員 記録員(常勤) など	当該者は2週間の自宅待機とする。2週間経過後、高熱などの症状が出なかった場合は復帰可。
B	毎日ではないが複数回球場へ来場する人	審判委員 記録員	当該者は2週間の自宅待機とする。2週間経過後、高熱などの症状が出なかった場合は復帰可。
C	試合の時だけ来場する人	参加校関係者 (指導者、部員)	濃厚接触→PCR検査や抗原検査が陰性であっても、保健所で指示された健康観察期間(自宅待機)は、大会に参加することができないものとする。…高体連コロナ対応4(2) 濃厚接触者の疑い→保健所等から「濃厚接触者に該当しない」と判断されるまでは、体調等にかかわらず、大会参加を見送ること。…高体連コロナ対応4(3)

※「濃厚接触者とは」

患者(確定例)が発病した日の2日前以降に接触した者のうち、次の範囲に該当するものである。

- ・患者(確定例)と同居あるいは長時間の接触(車内、航空機内等を含む)があった者
- ・適切な感染防護なしに患者(確定例)を診察、看護もしくは介護していた者
- ・患者(確定例)の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・手で触れること又は対面で会話することが可能な距離(目安として1メートル以内かつ15分以上の接触)で、必要な感染予防対策なしで「患者(確定例)」と接触があった者(患者の症状などから患者の感染性を総合的に判断する。)

「共通条件」

罹患者が発生した場合、本人が発症2日前から、その時点での行動歴を明らかにすることが重要。

「運営委員」「記録員」「審判委員」「参加校指導者、部員」等、試合に関わる全ての者は試合開催2週間前の行動歴(いつ、どこに行き、誰と会ったか)を記録しておくことが求められる。

日付	行先	滞在時間	接触者
4月29日	部活学校球場	2時間	部員全員
5月1日	〇・整骨院	1時間	担当施術者と受付人

3. 大会終了後の健康観察

大会関係者、参加校チーム関係者、学校応援者(保護者、校長等含)は大会を終えた後、7日間以内に新型コロナウイルスに「感染」した場合、あるいは「感染が疑われた」場合は速やかに岩手県高体連軟式野球専門部事務局に報告する。

4. 来場する全ての者(下記(1)-(4))の健康管理

- (1)大会役員(役員、補助員、審判委員、看護師等含)
- (2)参加校関係者(指導者〔責任教師・監督〕、登録選手、控え部員)
- (3)報道関係者(記者、カメラマン等含)
- (4)観戦者(保護者、チームスタッフ〔副部長・コーチ〕、校長等含)

《入場制限対象者》

入場制限対象者は次のとおりとする。

- ① 過去1週間以内から来場時まで以下(1)～(4)を含む体調不良のある方
 - (1) 体温37.5℃以上
 - (2) 強い倦怠感
 - (3) 咽、咽頭痛、息苦しさ等
 - (4) 味覚・臭覚異常等の異変がある

- ② PCR 検査陽性歴があり、次の(1)～(4)のいずれかに該当する方
- (1) 有症状者では、発症日から 10 日未満、なおかつ、症状軽快後 72 時間以内
 - (2) 症状軽快後 24 時間経過から 24 時間以上の間隔を空け 2 回の PCR 検査で陰性を確認できていない
 - (3) 無症状病原体保有者では、陰性確認から 10 日未満
 - (4) 検体採取日から 6 日間経過後、24 時間以上の間隔を空け 2 回の PCR 検査で陰性を確認できていない
 - 1) 濃厚接触者として自宅待機中
 - 2) 家族が濃厚接触者として自宅療養中
 - 3) 家族に上記①の(1)～(4)いずれかの体調不良者がある
 - 4) 海外から帰国(日本に入国)して 7 日以内
 - 5) マスク非着用の方
 - 6) 入場時に氏名・連絡先記入、検温にご協力いただけない方

《球場入場時》

- ① 入場の際し、来場者が感染した場合、その追跡が不可欠となることを踏まえ、厚生労働省開発の新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の登録を推奨する。
- ② 上記①に係り、「COCOA」の登録がなされていない来場者に対しては、氏名・連絡先を記入させ合わせて来場者の「COCOA」登録の有無を問わず、検温実施および手指消毒の協力を求め、マスク着用のうえ入場させる。

《観戦中》

- ① 声を出しての応援…高体連コロナ対応 3(2)(ウ)、合唱(試合中、試合前後)を禁止する。
- ② ハイタッチや得点時に座席の上に立つ、または 1 箇所に集まる行為、タオルを回す行為は控える。
- ③ 楽器(ブラスバンド等)の使用は禁止する。
- ④ ソーシャルディスタンス(最低隣の観客との間隔を 1 席設ける)をとって観戦する。
- ⑤ 観戦終了後、最低 7 日間は自身の座席位置が確認できるように促す。自身の座席位置や座席番号をスマートフォンでカメラ撮影することや入場券に自身の座席番号をメモすることを促す(場内放送やスクリーン表示等)。
- ⑥ 着席後、球場内の不必要な回遊を避けるよう求める(接触回避)。

ただし、「控え部員」および「保護者」の応援は、『応援エリア』における次の応援行為を認めることとする。なお、『応援エリア』での応援者は「控え部員」、「保護者」、「チームスタッフ(副部長・コーチ)」、「校長」を原則とするが、加えて、休日・祝日等において応援エリアでの観戦を希望する「学校関係者(一般生徒・教職員)」までとし、応援は「控え部員」主導の形態とする。

- ❶ プレーに対する拍手(チーム毎に工夫した拍手も可)
- ❷ メガホンの使用(ただし、声援(発声)するための使用は禁止)
- ❸ 太鼓の使用(応援エリアに 1 個のみ)

○各参加校がブラスバンドで録音した音源を試合中の攻撃時にスピーカーで流すことを許可する。但し、日々練習に取り組んでいる参加校のブラスバンド部員に対する教育の一環としての救済策であるため、参加校のブラスバンド部が演奏したもののみを音源とし、他の音源は許可しない。また、スピーカーや電源は各参加校で用意することとする(球場のものは使用しない)。

5. 選手の移動・宿泊等

- ① 試合会場への移動の際はマスクを着用し、会話を控え、手指消毒を心掛ける。
- ② 送迎バスを利用する場合は適宜換気を行い、人と人との間隔を空けて座ることとする。公共交通機関の場合は混み合う時間帯をなるべく避けるよう注意する。
- ③ 移動中(試合会場含む)に食事を行う場合は、人と人との間隔を(1m~2m)を空け、対面になることを回避する。
- ④ 宿泊は極力控えることが望ましいが、やむを得ず宿泊を伴う場合は、個室や食事の個別提供が可能な宿泊施設とし、密閉・密集・密接を回避するよう心掛け、不要不急の外出は自粛する。

6. 試合

- ① 球場到着後、責任教師は速やかに、次の書類を本部に提出する。
 - ①【チーム用】「健康チェック表」
 - ②【保護者用】「入場申請書」
 - ③【控え部員用】「入場申請書」

※ 上記①②③における全ての記載者については、試合当日の朝に検温を済ませ、体温明記のうえ来場することとする。

※「健康チェック表」、「入場申請書」等の様式各種は、メールで配信する。適宜作成を願いたい。
- ② 球場入りは、23名以内に制限する。内訳は、選手資格証明書に登録された者として、選手 20名・記録員 1名・責任教師 1名・監督 1名。

※ 荷物の運搬は、ベンチ入りメンバーおよびノック補助員(兼ボールボーイ)にて行う。

※ 副部長およびコーチ等の球場入りは登録済であっても控えることとし、スタンド待機・観戦を原則とする。ただし、大会役員としての割当てがなされている場合は、その限りではない。
- ③ 球場の入退場時、各チームはマスクの着用を徹底し、検温および手指消毒を行う等の感染予防に努める。

※ 各チームの着用マスクについては、不織布のマスク(白)が望ましいが、その判断は各チームに一任する。ただし、マスクの色はチーム統一とし、商標が表に見えるものは使用を不可とする。新1年生がベンチ入りする際、発注上マスクが間に合わない場合はその限りとはしない。
- ④ 道具については、試合前後の除菌・消毒を徹底する。
- ⑤ 水分や塩分・栄養補給は、各選手個別のペットボトルや容器を使用し、共用で使用するジャグやコップ等の使用を控える。
- ⑥ ウォーミングアップ時、選手のマスク着用は義務付けない。ただし、球場外でウォーミングアップをする場合は、観戦者等の近くで行うこともため、マスクを着用することが望ましい。
- ⑦ 試合開始前、終了時に整列する際、選手は手を腰に当てて、隣の選手とぶつからない程度の距離を空けて挨拶を行うこととするが、発声を控え一礼のみとする。また、ベンチ前での円陣を組んでの声出しやハイタッチ等の接触を伴う行為を自粛する。守備のタイムでマウンドに集まった際は、グラブで口を覆うことを心掛ける。
- ⑧ 試合終了後の校歌演奏(斉唱)時も上記⑦同様に距離を空けることとする。対面を回避できることに鑑み、校歌を声に出して構わない。
- ⑨ ベンチ内での感染防止対策として、令和4年2月9日付にて日本高等学校野球連盟より通達であった「シーズンにおける部活動について(お願い)」で示された周知徹底事項のひとつ、「プレイヤー以外は、マスク着用を必須とし、特に共用の用具の消毒を徹底する」に係り、「プレイヤー以外」の解釈は、「責任教師」・「監督」・「試合に出場していない選手」・「記録員」を指すこととする。なお、「3塁コーチャー」については、コーチャーズボックスでのマスク着用は強要しない。加えて、ブルペンにて登板に備え準備する「投手および捕手」、そして交代に備え準備する「野手」においても同様とする。「ノック補助員(兼 ボールボーイ)」においては、シートノック

時をはじめ常時マスクを着用することとする。また、ベンチ内では、密回避を踏まえ、選手同士の適度な距離感を保つことを心掛ける。※「ウイルス感染防止対策」としてのマスク着用ではあるが、せて「併せて熱中症対策」も推し進める必要がある。適宜の水分補給および体調を踏まえたうえでマスク脱着等、暑さ対策も軽視することのないようお願いする。

- ⑩ 試合後は、ベンチ内の除菌作業を責任教師管理下にて当該校が行う。
※除菌作業に係る備品は、本部が管理する。
- ⑪ 試合前後の控室等の使用は、原則控えることとする。
- ⑫ 次試合の出場チームの待機場所は、原則スタンドとする。
- ⑬ 1試合目の出場チームと次試合の出場チームが球場内にて接触することを回避するため、次試合の出場チームは、本部の指示に従い、1試合目の出場チームが退場してからの入場を原則とする。
- ⑭ 大会において、各チームに投手用ロジンを配付するが、そのロジンは自チーム専用とし、相手チームとの共用を避けることとする。
- ⑮ 本大会は、新型コロナウイルス感染防止を前提としていることを踏まえ、他校の部員が偵察を目的として球場入りすることを禁止する。

7. 応援・観戦

【入場者分類①：「参加校関係者(控え部員)」】の『応援エリア』を設置

※控え部員の入場

… 球場到着後、各校責任教師が提出した「入場申請書(控え部員用)」を基に、大会 役員が控え部員の健康状態を確認のうえ、待機場所へ誘導する。

【入場者分類②：「観戦者(保護者、チームスタッフ〔副部長・コーチ〕、校長等)」】

… 「5. 来場する全ての者(下記(1)~(4))の健康管理」を踏まえ対応する。

※ 保護者、チームスタッフ〔副部長・コーチ〕、校長等

…入場にあたり、保護者・チームスタッフ〔副部長、コーチ〕・校長等は一般観戦者 として扱う。
なお、登録済チームスタッフは「指導者証」提示で入場可。校長は「高野連帽子」若しくは「リボン(参与)」装着で入場可。当該校の控え部員とともに球場内『応援エリア』での応援をお願いしたい。

【VTRの撮影】

※ 設置箇所はバックネット裏のエリアとし、相手ベンチが映像に映る箇所への設置は、禁止とする。

8. 報道(メディア)・写真(VTR)業者への対応

- ① 報道各社には、報道受付で入場申請書に必要事項を記入・検温・手指消毒を行い、マスク 着用のうえ入場を許可する。なお、記者室の使用は原則不可とし、スタンド等屋外にて取材を求めることとする。(ID 配付、合わせて報道各社の腕章の装着を促す)
- ② 取材態勢は、「新聞・雑誌・ラジオ(非中継)は1社1名(ペン、カメラ兼ねる)」、「テレビは1社2名まで」を原則とする。
- ③ 写真 [VTR] 業者(チーム委嘱)においても上記①の事項を原則とし、対応する。
試合前の選手や監督への取材は禁止する。試合後においては、次のとおりとする。

囲み取材を原則とする。各チーム監督および選手2名(計3名)を対象とする。取材時間は各チーム15分間(1名5分以内)を上限とする。なお、責任教師の承諾があれば、選手の短時間(1名5分以内)での取材を許可することとする。取材場所は球場外とし、チーム関係者とメディア関係者との距離(およそ2m)を十分に確保する。

9. 運営

- ① 令和2年度から採用している「投手の投球制限(1週間500球以内)」および「申告故意四球」を運用する。2回戦以降、試合前に「投球制限書式ブアイル(岩手版)」の投球実績表(確認シート)を両チームの責任教師および責任審判委員に配付し、双方の登板投手の投球数および残数を確認し、1週間以内に500球を越えないよう選手の健康管理に努める。岩手県高野連事務局が提示する運用方法に沿って対応する。

※ 令和3年度より「申告故意四球」の場合は、場内アナウンスを行うこととする。
- ② 「継続試合」について(R4東北地区高等学校野球大会における継続試合の取扱い)
かねてから検討を重ねてきた継続試合は、全国大会において令和4年度シーズンインからの採用に伴い、都道府県主催並びに地区主催(東北地区)の大会においても各都道府県連盟の実情に応じて採用できることとなった。しかしながら、東北地区においては、令和4年度における東北地区高等学校野球連盟主催の大会並びに東北地区各6県連盟主催の大会においては、継続試合を採用しない。
- ③ ホワイトスパイクについて
2020年~2021年はブラックおよびホワイトスパイクの混在猶予期間となっており、2022年からはいずれかのカラーにチームで統一することとなっていた。しかし、今年度以降も混在可となった(指導者もふくめて)。
- ④ ヘルメットについて
今年度から顎ガード付きヘルメットを使用することができる。
- ⑤ 手袋について
手袋の表面に氏名、番号、その他の文字を表記すること(刺繍も含めて)は禁止とする。
- ⑥ 試合会場における感染予防として次の準備を行う。
 - ❶ 「手洗い場所」
 - (1) 手洗い場には石鹼(ポンプ型が望ましい)を用意すること。
 - (2) 「手洗い30秒以上」等の掲示をすること。
 - (3) 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意すること。
 - ❷ 「試合会場全般」
 - (1) 室内においては、関係者が密な状態とならないよう配慮すること。
 - (2) 室内または室外で複数の関係者が触れると考えられる場所(ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等)については、こまめに消毒すること。
 - (3) 室内においては、換気^①の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行うこと。

※ 換気設備の適切な運転、定期的に窓を開け外気を取り入れること。
- ⑦ 救護担当者(看護師等)は、大会本部に常駐することとする。来場者に発熱や体調不良等の感染が疑われる人が発生した場合は検温を行い、その疑いが濃厚であれば保健所の窓口に連絡して指示を受ける。
- ⑧ 審判委員への給水は、控え審判等に依頼する。感染防止を踏まえ、タオル等の提供は行わない。
- ⑨ 審判委員の試合前の用具点検用として衛生手袋を用意する。
- ⑩ 大会役員(救護担当者および審判委員含む)の昼食(飲料水含む)は、各自が用意することとする。併せて、補助員も同様の扱いとする。

- ⑪ 各球場の収容定員目安を踏まえ運営にあたることとする。役員は、バックネット裏および内野スタンド収容状況を適宜観察し、密集(混雑)との判断をした際は、速やかに外野スタンド開放の処置を行うこととする。
- ⑫ 岩手県高体連軟式野球専門部事務局は、大会競技役員(救護含む)の健康チェックを日毎実施し、「健康チェック表」の作成に努める。
- ⑬ 岩手県高体連軟式野球専門部事務局は、審判委員に対し、日毎の「健康チェック表」の提出を求めること。
- ⑭ 各校の校旗の取り扱いについては、試合前に両チームの校旗を掲揚し、勝利チームの校歌演奏(斉唱)後に降納することとする。

10. 「運営上の留意事項」

①【観戦中】

マスク着用、咳エチケットの協力依頼を行う。

観戦中の座席は一定の距離をとるよう促す。(1m~2m)

場内放送やビジョンを使用し、感染への注意喚起を促す。

1) 入場者のマスク着用。

※熱中症が懸念される場合には「こまめな水分補給」、「周囲の人との距離を十分に取り、マスクを一時的に外して休憩」等のアナウンスを行う。

2) 観戦中の座席は、人と人との距離(1m~2m)をとる。

3) 飲食する際は、特にも人と人との距離をとり、飛沫感染防止に努める。

4) 万が一、球場での観戦後、コロナウイルスに感染した場合、保健所等へ速やかに連絡を入れる。

②【消毒液の設置】

◆入退場口等に消毒液を設置し、手指消毒の励行を促す。

◆入場時の検温にて異常がないと確認されていた人が、観戦中に余程の体調不良に陥った場合は、医療機関の受診および帰宅を促す。

■その他■

① 新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底したうえで大会運営にあたること。

② 健康チェック表・入場申請書等の扱いについては、記載から7日間は岩手県軟式野球専門部事務局が責任を持って管理し、その後シュレッター等にて確実に破棄する。